

とよなか都市創造研究所
令和7年度（2025年度）調査研究報告会 開催案内

1. 目的

とよなか都市創造研究所において令和7年度（2025年度）に実施した調査研究成果を報告します。報告会は、都市政策に関する問題等について市民や市職員の認識を深め、市民の市政に対する理解並びに市職員の政策形成能力の向上を図ると同時に、本市の地域資源を再確認し、これからの地域づくりを考える機会として実施するものです。

2. 主催

都市経営部とよなか都市創造研究所・総務部人事課

3. 日時

令和8年（2026年）6月30日（火）14時～16時

4. 場所

豊中市役所別館 研修室（豊中市北桜塚3丁目1番28号）

※駐車場はございませんので公共交通機関でお越しください。

5. 講師等

報告：とよなか都市創造研究所職員

講演：大阪大学大学院 人間科学研究科

准教授 三谷 はるよ 氏

6. 対象

・市民 10人（先着順）

・希望する市職員

7. 申込み

令和8年6月23日（火）16時までに電話・メール・電子申込システムいずれかの方法でお申込みください。

とよなか都市創造研究所 電話 06-6858-2376

Mail toshisouzou@city.toyonaka.osaka.jp

電子申込システム

https://apply.e-tumo.jp/toyonaka-city-u/offer/offerList_detail?tempSeq=11648

QRコードはこちらから



8. 内 容

令和7年度の研究所調査研究報告及び有識者による講演

○調査研究報告

①「豊中市の子どもの学びと育ちに関する総合的な調査研究Ⅲ」

とよなか都市創造研究所では、「豊中市のすべての子どもの可能性・チャンスの最大化」を目的に、令和5～7年度（2023～2025年度）の3年間を期間とするプロジェクトとして、標題の調査研究に取り組んできました。アンケートデータや行政データを活用し、学力や健康など子どもをめぐる格差の現状把握を行うとともに、学校・家庭・子どもなどのレジリエンス（逆境から迅速に回復し、さらには成長できる力）の観点から格差縮小のヒントを探る分析を進めてきました。本報告会では、調査研究成果の概要を研究員から報告します。

②「くらしの豊かさ実感調査」

ウェルビーイングとは「身体的、精神的、そして社会的に良好で満たされた状態」のことを指す言葉です。近年、国・地方自治体では、経済指標のみでなく、幸福度や満足度などウェルビーイング指標を政策立案に活用する取り組みが広がっており、とよなか都市創造研究所においても、令和6年度（2024年度）から2年間「くらしの豊かさ実感に関する調査研究」としてウェルビーイングに関する研究を進めてきました。

今回の報告ではウェルビーイングという言葉について概説したうえで、1年目に実施した「くらしの豊かさ実感に関するアンケート調査」および2年目に実施した市民へのインタビュー調査から、豊中市民の現在のウェルビーイングの状況についての調査結果を取り上げます。

講演：有識者から関連分野の講演を実施します。

【講師プロフィール】

大阪大学大学院 人間科学研究科 准教授 三谷 はるよ 氏

日本における子ども期の逆境体験（ACE）に関する研究

専門は家族社会学・福祉社会学

主著に、『ACE サバイバー：子ども期の逆境に苦しむ人々』（ちくま新書、2023年）

講演テーマ 「ACE（逆境的小児期体験）の理解と地域や自治体の関わり」

ACE（逆境的小児期体験）とは、18歳までに経験する虐待・ネグレクト、家庭内暴力、家族の依存症・精神疾患など、強いストレスやトラウマとなりうる体験を指す。1990年代以降の研究により、ACEの蓄積が成人期の心身の健康や生活困難、社会的孤立などと関連することが明らかにされてきた。一方、近年では、安心できる人間関係や地域とのつながりといった肯定的小児期体験（PCE）が、ACEの影響を緩和しうることにも注目が集まっている。本講演では、ACEとPCEに関する研究知見を紹介するとともに、子どもや家庭を支える地域・自治体の役割について、先進的な実践事例も踏まえながら考える。

9. プログラム

時間	内容
14 : 00～14 : 05	開会挨拶
14 : 05～14 : 40	令和7年度研究報告①②
14 : 40～14 : 45	質疑
14 : 45～14 : 50	休憩
14 : 50～15 : 50	講演「ACE（逆境的小児期体験）の理解と地域や自治体の関わり」
15 : 50～16 : 00	質疑